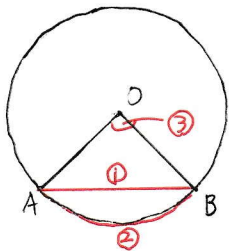


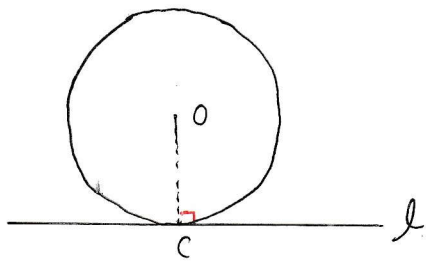
## 円とおうぎ形の性質



左の図で線分ABを(①弦AB)という。

円周のAからBまでの部分を(②弧AB)という。  
( $\widehat{AB}$ )と書く。

また $\angle AOB$ を $\widehat{AB}$ に対する(③中心角)という。  
線分ABが直径なら、中心角は( $180^\circ$ )になる。

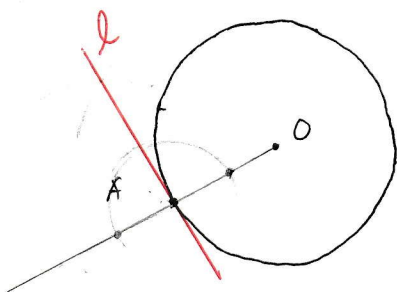


左の図のように、円と直線が1点で交わる時、  
直線は円に(接する)という。

そしてこのときの点Cを(接点)、直線 $l$   
を(接線)という。OCは $l$ に  
(垂直)になる!

## &lt;作図&gt;

①点Aが接点となるように接線 $l$ を作図しよう。



中心から接点をまわって定理を  
引く。(空まかしてOK)

↓  
点Aを通る垂線を書こう。  
Aを中心にくると半円を描き  
2カ所点をつくる。

↓  
さらにその2カ所の点に針を  
刺し交わる線を引き

↓  
その交わる線とAを結んだ  
線を引き、 $l$ と書く。